

## 会議結果（要旨）

会 議 名	平成29年度 第2回音更町介護保険事業等運営協議会
開 催 日 時	平成29年10月18日（水） 午後6時30分から午後7時35分
開 催 場 所	音更町保健センター 検診室
委 員 出 席 者	森川会長、田中委員、河田委員、今井委員、小林委員、向平委員、 鷺北委員、村中委員、藤川委員、林委員、伊藤委員、堀委員、 長村委員
事 務 局 出 席 者	古田保健福祉部長、谷川保健センター事務長、 堀田高齢者福祉課長、渡辺高齢者福祉課参事、前田高齢者福祉課主幹、 背戸田介護保険係長、三橋予防調整係長、河原介護保険係主任、 金谷主任専門員
議 題 内 容	1 開会 2 会議録署名委員の指名 3 議案第1号 第6期音更町高齢者保健福祉計画の事業実施状況及び 第7期音更町高齢者保健福祉計画の検討案について 4 報告第1号 地域密着型介護サービス事業所の指定について 5 その他
会 議 資 料	各調査から見てきた現状
会 議 結 果	会議録署名委員の指名 向平委員、鷺北委員 議案第1号 音更町高齢者保健福祉計画として第6期期間中に実施した 主な事業、課題を報告した、アンケート調査の報告、第7 期計画における重点課題である地域包括ケアシステムの取 組案を説明 報告第1号 地域密着型サービスの新規、更新事業所について報告 その他 「デイサービスゆうゆう」の廃止について説明
出された主な意見等	○議案第1号 委 員：以前のアンケート調査では特養施設の不足が一番であったが、 今回の調査では訪問介護のことであった。これは地域包括ケア システムが浸透してきたことによるものか。 事務局：一因としてあると思う。その他の要因として特養の申込基準が 要介護1以上から要介護3以上へと厳しくなったために待機者 が減ったこともある。ただ、申込基準が要介護3以上となった ことにより、要介護1と2の方は特養に申込みができなくなっ たため、軽度者のニーズに対応する検討が必要ではないかと考 えている。 委 員：「すまいる」や「ふまねっと」の期間満了で行き場や目的を失 っている方がいる。介護予防の観点から、単発で終わることな

	<p>く、次の目的や活動に繋がるように配慮してほしい。</p> <p>また、要支援の方が掃除や料理ができなくなった時に、その情報をいち早く拾い上げ、ヘルパーと一緒に掃除や料理をする訪問リハビリを取り入れると効果のあることが分かっている。ケアマネの力量も関係するが、リハビリの方面では、掃除や料理ができなくなったとき、安易にヘルパーを入れるよりも、本人がヘルパーと一緒に掃除や料理をすることにより、重度化の防止になるのではないかと。</p> <p>事務局：「すまいる」は総合事業の通所型サービスとして期限を設けず行っている。機能低下の防止を重視した「転倒骨折予防教室」ではネーミングのせいか新しい人が増えていない状況がある。ただ、途中で休んでしまうと次の教室期間を迎える前に機能低下することが分かってきたので、継続できるように変えている。また、定数に満たない教室の場合、行き場のない方が一緒に何かをする仲間がいる楽しみの場となるよう継続参加を考えていきたい。</p> <p>要支援の方のケアプランでは、ほとんどの方が掃除と買い物の支援となっている。ご指摘のとおり、ある動作のできなくなる変化に気づき、早期対応することが生活保持に繋がると考えている。アンケートでは訪問介護が不足しているとのことだが、町が広いと距離的な問題があり、隅々までにサービスが行き渡っていないこともあるので、ヘルパーの訪問以外で補完できる方法がないか検討している。</p> <p>委員：現在、夫婦2人で年金生活しているが、もし夫がいなくなったら経済的に困ると思っている。地域包括ケアの生活支援では、主体が地域の互助やボランティアとなっているが、自立したい気持ちがあっても生活に困ってはボランティアをする余裕がないだろうと心配である。ボランティアが高齢者の余裕を生む収入とならないものかと思う。</p> <p>事務局：生活支援においてはいろいろな面で支え合う場面が想定されるがボランティアを前提としているので、経済的収入とすることは難しい。現在、ボランティアポイントを実施しているので年間5千円を還元する事例はある。社会福祉協議会の高齢者就労センターで働いて社会的貢献するのも1つである。また、管内の2つの自治体では、高齢者を介護員として受け入れ賃金を支払うというモデル事業の動きがある。これは深刻な介護の人材不足と元気な高齢者が働けるという要素がマッチングするか検証するものである。状況を見ながら本町でも検討したい。</p> <p>委員：地域包括ケアシステムは国のモデルパターンを参考にしたものと思われるが、音更町独自のシナリオは含まれているか。</p> <p>事務局：ベースは国の考え方である。今回は音更町が目指す姿を盛り込</p>
--	--

様式 4

	<p>みたいと考えている。それは生活支援コーディネーターを配置し、地域にお邪魔してそれぞれの地域でどんなニーズがあるのか掘り起こしをして、掘り起こした課題に対してどう取り組むべきか目指す目標を定めたい。</p>
お問い合わせ先	<p>保健福祉部地域包括支援センター高齢者福祉課介護保険係 (0155-32-4567)</p>